

(様式第4号)

上田市図書館協議会 会議概要

1 審議会名	上田市図書館協議会
2 日時	令和2年12月18日(金) 午後6時30分から午後8時00分まで
3 会場	上田情報ライブラリー セミナールーム
4 出席者	佐々木会長、山寄副会長、松井委員、北沢委員、斎藤委員、大井委員
5 市側出席者	浅野上田図書館長、柳原上田情報ライブラリー館長、高橋上田図書館係長、 金田上田図書館係長、大林上田情報ライブラリー次長、金子丸子図書館次長
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 1人
8 会議概要作成年月日	令和2年12月27日

協 議 事 項 等

1 開 会
2 あいさつ (佐々木会長)
3 自己紹介
4 協議事項
(1) 第二次上田市子ども読書活動推進計画について
・資料に沿い、浅野館長から概要を説明
・以降、協議
(委 長) 学校司書の研修はどのようにされているか。
(事務局) 年度初めにエコールの会議を実施し、そこで研修を行っている。また、上小東御図書館協会の研修会もある。
(委 員) メディアコントロールデイは、どこの部署がどのタイミングでどういう意図で実施されているのか。
(事務局) 現在の計画ではスイッチオフ運動としているが、保育課と学校教育課から上がってきている。幼保小中連携で家庭においてメディア機器の利用を少なくしようとする取組で、保育園や学校から家庭に呼びかけて実施している。
(委 員) これは、新規のものか、継続のものか。
(事務局) 以前はスイッチオフ運動としていたので、全く新規のものではない。
(委 員) メディアコントロールを行政が家庭にやりましょうと提案するのは勧誘に繋がらないか。学校や幼稚園・保育園が行うので、現場との温度差が怖い。全国的には岡山が県を上げて推進しているが、行政が家庭に勧誘する危険性を念頭においたうえで進めてほしい。教育行政のあり方の問題になるので気を付けてほしい。公共図書館が、家庭で、親子で読書を楽しむ親子読書の取組も全国的に進んでいて、いろんな自治体で家読書「うちどく」という言い方をしたり、パンフレットを作成している自治体も多々ある。公共図書館としてメディアコントロールをすることは、いろんなメディアを使いましょうという考え方に逆行していると思う。だから公共図書館としては、「うちどく」をすることにより、ゲームやスマートホンを少し控えたかどうかというのが限界だと思う。加えてメディアコントロールの関係では数値目標は入れないでほしい。
(委 員) 四中では、グッドメディアデイという名前を付けて、テストの前に焦点をあてて、小学校も一緒にやりましょうと取り組んでいる。
(事務局) 今のご指摘の部分はどのような文章にするか検討させていただく。
(委 員) 児童コーナー等の整備のところに情報の提供とあるが、どのような方法でやるのか。図書館内か、外部でもやるのか。図書館に來ない人にも伝わるようにしてほしい。
(事務局) 内部プラスいろんな媒体を通じての情報発信も入って來ないといけないと考えている。これでは伝わりにくいところもあるので検討させていただく。
(委 員) 学校図書館のセンター機能について質問したいが、「読書センター」や「学習情報セン

ター」と記載があるが、5年前の文科省の改定で「学習センター」と「情報センター」は切り分けて別機能だとされたが、前の記述のままでよいのか。

(事務局) まとめて書いてしまったが、表現が正しくないのなら直したい。

(委員) 文科省では、学校図書館の居場所の機能についても考えているので、「居場所」という言葉も加えてほしい。実際に居場所の機能があって子どもたちが図書館に行くので、私はとても大事だと思う。

(委員) 学校司書の配置について、専任はどのように配置されているか。

(事務局) 学校司書は、小中すべて専任で配置されている。小規模校に司書が配置されなくなることがないようにという考えで記載した。

(委員) 司書教諭の発令状況を教えてほしい。

(事務局) 学級数によって配置されなければならないようになっていて、その基準に基づいて配置されている。

(委員) 11 学級以下の学校でも司書教諭の発令ができるように、教員の育成に力を入れていただきたい。読書センター以外のセンター機能にリンクしているので充実できるような人材の確保をしてほしい。

(事務局) 学校教育の方へ伝えたい。

(委員) 読書資料の充実について、毎年ここで教科書展を開催し、市民に教科書を見てもらっているが、とても良いと思っている。教科書が改訂されてきていて、どういう教育に力を入れようとしているか分かる。多様な学び方があると理解できる。それに対応できるような図書の選定や学校司書との協議をしながら充実していくことが必要だと感じている。

(事務局) いろんな角度からどのような資料が必要なのか見極めながら収集していく必要がある。

(委員) 関係機関・団体等との連携について、「書店組合などの民間との連携・協力も模索し」とあるが具体的にはどういうことか。

(事務局) 例えば、絵本リストを書店組合を通じて置いてもらうとか、絵本の選書の技術を活用させていただくとか、民間の発想を参考にしたり、何が連携できるか考えていきたい。

(委員) 貸出冊数についての統計が出ているが、数値目標は掲げないで継続してもらいたい。目標値を掲げてしまうと、子ども達は読みもしないでよく借りていく。実際に読んで楽しかったという経験や深い読みをさせていきたい。学校の足かせにならないようお願いしたい。また、関連で、文部科学省が小中学校に図書標準を設けていて、都道府県ごとに達成率を公表しているが、運用面で図書標準を下回っても問題ないと学校に言ってもらえると学校が安心すると思う。標準を達成するために古い本を除籍できない。古い本がたくさんあっても子どもは絶対借りていかない。図書標準が足かせとなって除籍できないような読書活動は、センター機能を著しく落としてしまう。

(事務局) 図書標準は、学級数により何冊本が必要なのか数値で算出出来るものだが、上田市の小中学校は全て図書標準をクリアしている。

(委員) 特別支援学校の学校司書の配置、司書教諭の発令をし、学校図書館の居場所の機能を充実してほしい。

(事務局) 上田養護学校は県立なので、何をどこまで出来るか難しいところもあるが御意見としてお聞きしたい。

(委員) 以前、小中学校の希望者に無料で利用カードを作ってあげたらどうかと意見を出したが、4月辺りに申込書を全学校に配って、カードを作りたい人だけ学校で取りまとめをもらって、図書館でカードを作って学校に配るとするのはどうか。カードを作れば、図書館の利用者が増えると思う。

(事務局) カードだけ作っても子どもだけでは公共図書館に来れないので、どうかというところはある。

(委員) 新潟市で、今の事例を行っている。新潟市では、図書館長が校長会で承諾を得て、申込書とリーフレットをクラス担任から配布し、学校でまとめて申込みをするという方法で行っている。それで、貸出冊数が増えたという報告があった。

(委 員) 3年程前に東京の図書館へ視察に行ったときに、学校と提携して申込みをしているという話を聞いた。真田や丸子ならある程度は可能だと思う。

(委 員) 小さい子どもだと親と一緒にないと図書館に来られない。親が本を借りようという気持ちにならないと来ない。図書館が魅力的になれば、親子で来るようになる。絵本をプレゼントするセカンドブックは良い取り組みだと思う。

汚れている本が結構あるので、整理してもらいたい。

(委 員) 新聞やラジオで企画したものを宣伝してもらうようにしたらいいと思う。マスコミの力は大きいので、マスコミを利用し、宣伝したらいいと思う。

(委 員) この計画は、上田市教育大綱との関連性はどのようになっているか。教育大綱には学校図書館の記述が全くないと思う。いずれは教育大綱の中にも学校図書館の記述がはいるのか。政令指定都市には、学校図書館の記述がとても多い。学習指導要領の改訂により、学校図書館の利活用が叫ばれている。次の上田市教育大綱の改定時には、学校図書館の3センター機能、居場所は最低限入れていただきたい。

(事務局) 教育大綱を所管している部署へ伝えたい。

(2) 上田市図書館施設整備計画について

- ・資料に沿い、浅野館長から概要を説明
- ・以降、協議

(委員長) 整備計画についての具体的な話は今回が初めて。3年程前に案が示されたことはある。全て検討するには多くの時間を要するので、意見をまとめて出していきたい。

(委 員) 点字図書館は上田市立か。市立なら一緒に造ればバリアフリーで良いと思った。

(事務局) 県の施設になる。以前、検討したが、点字図書館を壊して合築することは難しいようだ。

(委 員) 上田図書館を複合化して新しく造るとなると同じ場所に建てるのか。

(事務局) どこに建てるかということも今後具体化しなくてはならないが、今現在は未定である。

(委 員) どの施設と複合化するという考えはあるのか。

(事務局) 近隣施設では、中央公民館と文化会館があり、市民プラザゆうという施設もある。近隣施設で合築という考え方もあるが、中央公民館、文化会館はまだ40年経っておらず改築まではいかないので、今の段階でどの施設と合築するというのは答えられない。考え方とすれば、近隣施設であったり、他の老朽化している施設ということもあるかもしれない。塩尻市のエンパークは、図書館と子育て支援センターが合築になっているという例もある。

(委 員) 建物が古びていくのを待って、建替えるのか。

(事務局) 市の施設の全体の中での整備ということもあるし、財源の関係もあるし、その時に改築しなければいけない施設の優先順位の中で、どの施設とどの施設が合築するかということもあるし、いろいろな角度で検討していかなくてはいけない。上田図書館は築50年なので、60年という目途をもって進めていきたい。

(委 員) 令和6年から検討に入るとなっているが、5、6年違うと社会がかなり変わってくる。人口減が急速である中でやらなくてはいけない。上田市の図書館に関係する人が早い段階からこういう図書館を造ってほしいというビジョンを出さないといけない。古くなったから建替えましょうというアプローチでは弱いと思う。毎年、検討を積み上げていって、4、5年経った時には持ち出せるようにしないといけない。コンサルタントに頼むと費用の面でこれだけだと言うとそれに合わせた図書館になってしまう。上田図書館は全国でも歴史が古く、先進的なものを持っていた時期があった。そういうことを生かすにはどうするか。

心配なのは、資料を集める部門がどんどんなくなっていることだ。良い資料を持ってもその人が亡くなってしまうと処分されてしまう。古文書などは若い人が見てもわからないので焼いてしまう人が結構いる。そういう時は図書館に相談してもらって、専門家の先生に見てもらい、必要なものは確保しないと歴史的に重要な資料がどんどんなくなってしまう。資料収集や図書館が本来持っている機能は、その時期を待つのではなく、絶

えず動くようにしなければならない。かつては、こういうことを調べたいなら上田図書館にしかないというレベルの図書館だった。今も上田図書館には価値のある蔵書がたくさんある。そういうものをこまめに集めていく努力をしてほしい。新しい図書館を造ると同時に中身も検討していく時期だと思う。

(事務局) 読書活動の振興、生涯学習支援、資料の収集、活用、保存は図書館の大事な使命であるので、そういうソフト面、ハード面を見据えた整備をしていかななくてはならない。

(委員) コンセプトを早めに作ってほしい。その中でタウンミーティングなど地域住民の意見を聴取する機会を設けていただき、早めにコンセプトを作り、その後、場所を選んでいくと思う。保育機能がある公共図書館が出始めている。コンセプトは、まちづくりが中心になってくると思うが、魅力あるまちづくりに観光資源としても、住民の生活の質が上がるという視点からも図書館作りをしてほしい。小諸図書館がやっている事例がおもしろいので参考にしてほしい。

(委員) まずビジョンを出して、それを実現する。保育の関係もそうだが、敷物を敷いてそこで小さい子どもが絵本を見れるというような図書館もある。

(事務局) 多様な図書館があるようで、例えば県立図書館では、インプットするだけではなくアウトプットするということをしていて、学んだこと、読んだことを仲間と話したり、そういう場所を設けたりしている。いろんな新しい図書館があり、それぞれコンセプトがあるので、上田図書館のコンセプトが何になるのか、市民の皆さんの意見を入れながら作り上げていく必要があると思っている。

(委員) 追い追いこういうテーマを出していただき、皆さんの意見が上に通っていきけるようにしていただきたい。また、司書や図書館に関係している人の声を把握してほしい。見やすい、利用しやすいということを完備している図書館があるので、十分に積み上げてもらい、1年で作るというのは難しいので、積み上げていった良い図書館を造ってもらいたい。

5 その他

(委員) 情報ライブラリーのDVD等はどのくらいの予算で、どのように更新しているのか。

(事務局) 予算は図書と同じ図書費の中で更新している。年間で三十数点購入している。

(委員) 図書館の建設の関係で、上田公園の中に造るという案はないか。上越市の高田公園の中に図書館がある。環境がとても良い場所なので、そういう場所に出来たらいいなと思っている。

(事務局) 上田公園は史跡の指定になっており、指定されている場所には新たなものを造ることはできない。昔は閑静な場所に図書館を造ったが、今は利便性の良い場所に造る場合が多いのではないかな。

6 閉 会